

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H01871

研究課題名(和文) 現代美術の保存と修復 その理念・方法・情報のネットワーク構築のために

研究課題名(英文) Conservation and Preservation of Contemporary Art: For the Construction of Network of Ideas, Methods, and Informations

研究代表者

岡田 温司 (OKADA, ATSUSHI)

京都大学・人間・環境学研究所・名誉教授

研究者番号：50177044

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,700,000円

研究成果の概要(和文)：素材やジャンル、作品形態や展示方法などにわたって、ますます多様化する現代美術をいかに収集し、保存し、必要とあれば修復していくかは、近年大きな問題となっている。本科研は、美学・美術史の専門家、修復家、美術館キュレーターを中心とした計19名の分担者と、7名の協力者、さらに4名の海外協力者からなる。期間中、このテーマに関連した海外調査、国際シンポジウム、国内シンポジウム、展覧会を実施・開催し、議論と考察を重ねてきた。これらの実績を踏まえて、2020年3月には、研究成果報告書『現代美術の保存と修復 その理念・方法・情報のネットワーク構築のために』を刊行し、関連機関に配布した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日、現代美術の保存・修復・記録化をめぐる問題は焦眉の課題の一つとなっており、これについて、内外の美学・美術史研究者、修復家、学芸員等とともに、海外調査、研究会やシンポジウムを議論を重ねることができた。また、京都大学総合博物館との共催で、テーマをめぐって、展覧会と2回のシンポジウムを開催し、学生のみならず広く一般公衆の関心を喚起できた意義は小さくない。展覧会では、科研分担者の田口かおりが修復したばかりの、京都ゆかりの井田照一の作品を中心に展示したが、多くの観客の関心を引くことができた。現代美術をいかに展示し保存し修復していくかという重要な問題に対して、広く関心を喚起する契機になったと考える。

研究成果の概要(英文)：In recent years, how to collect and conserve the contemporary art is becoming an increasingly big problem, because of the diversity of medium, genre, and form of exhibition. This research is composed of Japanese and foreign conservators, curators, art historians, and aesthetics researchers. During the period, we researched the foreign museums, held the international and national symposiums, and held the exhibition. Based on these results, we have published the report "Conservation and Restoration of the Contemporary Art: for the Network of its idea, method, and information" composed of 24 articles and reports.

研究分野：美術史

キーワード：現代美術 保存・修復 経年変化 メディウム 時間 再制作 ドキュメンテーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

過去の美術遺産や文化財の保存と修復については、社会的な関心や議論の高まりとともに、その理念や方法が練り上げられ、制度面においても整備が進みつつある。しかしながら、対象が現代美術となると、事情はまったく一変する。現代美術の作品においては、過去の芸術作品とは比較にならないほど、その素材の幅が大きく広がり、規模や展示形式もきわめて多様性に富んでいる。就中、その素材自体が耐久性に欠けるものであったり、一時的な展示のためにのみ組み立てられたりする作品も少なくない。しかもそのジャンルも、写真、映像、パフォーマンス、インスタレーション、プロジェクト等、ますます拡張化し多様化していく傾向にある。にもかかわらず、残念ながら我が国では、それらコンテンポラリー・アートをいかに収集して保存し、必要とあれば修復していくのかという喫緊の課題に関して、理論と実践の両面から、十分に議論され考察されてきたとは言いがたい。

2. 研究の目的

わが国で現代美術の収集が本格的に始まって半世紀近くが経とうとしている今日、作品の劣化や変質も急速に進んでいる。現代美術の作品は、その素材や展示形式の多様性において、過去の美術作品や文化遺産とは大きく異なる特徴を有する。にもかかわらず、ある一定のノウハウやコンセンサスのないまま、各美術館がそれぞれ別個にその場しのぎの対応をしてきている、というのが現状である。この現状を打開することが急務である。

本研究の主たる目的は、現代美術の保存と修復に関連して、各美術館の現状と対策を把握し、情報交換のためのネットワークを構築するとともに、将来にわたっていかなる収集・保存・修復の在り方が望ましいかを、美学や美術史の研究者、美術館の学芸員(研究員)、修復の専門家、さらに場合によっては現代美術の作家も交えて議論し模索していくことにある。

3. 研究の方法

本研究を遂行するための研究体制は主に、中核となる研究分担者(19名)と海外研究協力者によって組織される。これに研究協力者等が加わる形となる。研究体制は大きく三つに分けられる。すなわち美学や美術史を専門とする者、美術館の研究員・学芸員、そして修復の専門家である。情報ネットワークの構築という本研究の主旨の一つに鑑みて、できるだけ広く協力を求めることが望ましい。きわめて多岐にわたるコンテンポラリー・アートの特性を考慮して、映像の専門家も含まれる。

本研究は具体的に大きく以下の要素から構成される。

・国内の近・現代美術館によるコンテンポラリー・アートの収集とその保存・管理状態の把握。 ・これまでに行われてきた修復事例の記録化。 ・海外の近・現代美術館における現状と対応の調査。 ・コンテンポラリー・アート、ポスト・ミュージアム・アートの特性をめぐる美術史的・美学的考察。修復理論及び思想の再検討。 ・海外の専門家を含めた修復ワークショップの開催。 ・海外の研究協力者等を交えた公開シンポジウムの企画・開催。 ・美学・美術史の研究者、キュレーター、修復家による国内のネットワーク構築。 ・国内ネットワークの海外への発信と接続。 ・研究成果の報告書ないし単行本による社会への還元。

4. 研究成果

期間中に、分担者による研究発表会はもとより、内外の修復家を招いてのワークショップ、現代美術作家を交えたシンポジウム、さらに海外の美学者やキュレーターを招いた国際シンポジウム等を、ほぼ毎年2～3回程度の頻度で企画し、内外の多くの作家、保存修復家、研究者、美術館関係者と広く意見を交換することができた。そのうちから幾つかを以下に挙げる。

初年度(2015年度)には、イタリアの世界的な現代美術修復家アントニオ・ラーヴァ氏を招聘して、京都国立近代美術館と東京都現代美術館において、エフェメラルな素材の収蔵品と、ミクスドメディアの収蔵品を対象に、主に日本の修復家とキュレーターを交えて、実際の作品を前にしたワークショップをおこなった。

国際シンポジウム「現代美術における保存と修復」(2016年度)では、イタリアから二名の美学者(ローマ大学のジュゼッペ・パテッラ氏とパオロ・ダンジェロ氏)を招いて、モノとしての作品の枠を超えるインスタレーション等について「アイデアは修復できるのか」といったテーマや、過去の美術作品についての保存修復のコンセプトとなっている「チェーザレ・ブランディの修復理論は、現代美術においてどこまで有効なのか」といった、最も基本的で原理的なテーマについて議論を重ねた。

公開シンポジウム「アーティストが語る現代美術の保存と修復」(2017年度)では、

第一線で活躍する美術作家三名(岡崎乾二郎氏、藤幡正樹氏、宮永愛子氏)を招いて、実際のアーティストにとって、作品の保存や修復がいかなる意味をもつのかについて、意見の交換と議論をおこなった。三氏は、それぞれ絵画、メディアアート、エフェメラルな素材による彫刻と、ジャンルもメディウムも異なる作家たちであるが、現代美術の保存と修復にとって唯一の解答や統一原理はありえないこと、アドホックに柔軟な対応求められることが改めて浮き彫りになった。同じく2017年度に福岡市美術館と福岡アジア美術館との共催で開かれた公開シンポジウム「美術館と現代美術 展示/保存」では、いちど解体された大掛かりなインスタレーション作品の再制作や、タイムベースド・メディアにおける使用機材の確保・交換等をめぐって、アジアの現代美術も含めて、具体的な事例報告を踏まえながら発表と討議がおこなわれた。

国際シンポジウム「現代美術の再制作/再構築」(2019年度)では、実際にルチオ・フォンタナ作品の「再制作・再展示」に当たったマリーナ・プリエーゼ氏(カリフォルニア美術大学)を中心に、新たに展示するために過去の記録(文字や写真)に基づいて再制作・再組立てがおこなわれるという、現代美術が抱える大きなテーマをめぐって、さらに四名の分担者の発表を加えて議論をおこなった。

さらに最終年度には、広く公衆に現代美術の収集・保存・修復という問題に関心をもってもらい、議論を喚起するべく、分担者である修復家の田口かおりが実際に修復を手掛けた京都の特異な美術作家、井田照一の紙媒体の作品と、新たに制作された若手の現代作家たちの作品による展覧会「タイムライン 時間に触れるためのいくつかの方法」を、京都大学総合博物館との共同で開催し、これに関連して、作家とキュレーター、美学者と美術史家を交えた公開シンポジウムを二回開催した。

本科研が出発した時点では、もちろんコロナ禍の状況まで見通せたわけではないが、研究の進展とともに、気候変動や環境破壊が進む現状において(「アントロポセン」のテーマも含めて)、現代美術の何を、どこまで、いかに収集・保存し修復するかについての議論がますます活発化するようになった。もちろん、すべての事例や作品に適応されるような、保存・修復の理念や方法が存在するわけではないことは言うまでもない。内外の関連機関を含めて、問題意識を共有し、広く議論を喚起させ、情報を交換できたことが、本研究のいちばんの成果であったといえる。その成果が、研究成果報告書『現代美術の保存と修復

その理念・方法・情報のネットワーク構築のために』(2020年3月)にまとめられ、各関係機関に送られた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計61件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 前川修	4. 巻 1
2. 論文標題 モノとしての写真、メディウムとしての写真	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 211-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石谷治寛	4. 巻 1
2. 論文標題 タイムベースドメディア・アートの保存修復とアーカイヴ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 205-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口かおり	4. 巻 1
2. 論文標題 勅使河原蒼風《樹猷》；近現代美術の保存修復と調査の一事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 191-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本梓	4. 巻 1
2. 論文標題 ロバート・ラウシェンバーグ《至点》（1968年）の収蔵、保存、展示を巡って	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 183-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎田倫広	4. 巻 1
2. 論文標題 保存と展示の葛藤;荒川修作《作品》のエクス線解析から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復(研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 179-182
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森直義	4. 巻 1
2. 論文標題 「ヘント祭壇画」修復現場の訪問と修復家へのインタビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復(研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 173-178
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美圭司	4. 巻 1
2. 論文標題 宇佐美圭司《きずな》の廃棄と画像の再制作	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復(研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 161-172
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋庭史典	4. 巻 1
2. 論文標題 語られない作品	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復(研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田全彦	4. 巻 1
2. 論文標題 近現代美術と保存科学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 147-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳幸浩	4. 巻 1
2. 論文標題 美術の保存、建築の保存;荒川修作の建築的作品から考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 135-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 並木誠士	4. 巻 1
2. 論文標題 京都工芸繊維大学工芸資料館所蔵の近現代美術の修復について～ポスターを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 123-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上村博	4. 巻 1
2. 論文標題 凍結、融解、逗留 公共空間における現代アート作品の「保存」は可能か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 113-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金井直	4. 巻 1
2. 論文標題 保存と修復の外周～ふたつのトリエンナーレを経て～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 107-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山勝	4. 巻 1
2. 論文標題 写真集の再出版をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 85-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部葉子	4. 巻 1
2. 論文標題 大山エンリコイサム作品保存プロジェクトについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marina Pugliese	4. 巻 1
2. 論文標題 A Philological Approach to Replicas	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 37-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antonio Rava	4. 巻 1
2. 論文標題 New Challenges for Conservation of Contemporary Art	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 28-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡抜由季	4. 巻 1
2. 論文標題 公開シンポジウム「美術館と現代美術 展示／保存」報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 19028
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口かおり	4. 巻 1
2. 論文標題 ありとあらゆる作品は変化している	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田温司	4. 巻 1
2. 論文標題 記憶と忘却のあいだ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術の保存と修復（研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳幸浩	4. 巻 No.55
2. 論文標題 「ジム・ダインの版画 道具・自画像・ユーモア」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『Fuji Xerox Print Collection』	6. 最初と最後の頁 3-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋庭史典	4. 巻 図録
2. 論文標題 「終わり始まり」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アッセンブリッジ・ナゴヤ2018ドキュメント』	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原資明	4. 巻 7月
2. 論文標題 ヤワコい線上の『パタリロ!』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ユリイカ』	6. 最初と最後の頁 190-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎田倫広	4. 巻 展覧会カタログ
2. 論文標題 重層的な矛盾を抱えた実験 ホセ・マセダの場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代』	6. 最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部葉子	4. 巻 図録
2. 論文標題 ノグチ・ルームを巡って	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イサム・ノグチと岡本太郎 越境者たちの日本	6. 最初と最後の頁 106-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部葉子	4. 巻 展覧会カタログ
2. 論文標題 アナ・メンディエタ ;彼女は何処にいるのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『スタンディング・ポイントII「アナ・メンディエタ」展』	6. 最初と最後の頁 6-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口かおり	4. 巻 図録
2. 論文標題 《草むら》の「裏」 光学調査を手掛かりに読み解くゴッホの絵画技法と作品の歴史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印象派、記憶への旅	6. 最初と最後の頁 160-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口かおり	4. 巻 図録
2. 論文標題 ジャン＝フランソワ・ミレー 《角笛を吹く牛飼い》調査修復報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『山梨県立美術館紀要』	6. 最初と最後の頁 7 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金井直（共著）	4. 巻 1
2. 論文標題 『彫刻の問題』、その射程	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『彫刻1』	6. 最初と最後の頁 251-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川 修	4. 巻 図録
2. 論文標題 デジタル写真の現在 三つの層から考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 インスタグラムと現代視覚文化論	6. 最初と最後の頁 52-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加治屋健司	4. 巻 1128号
2. 論文標題 グロイスにおける芸術の制度と戦後日本美術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 87-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田祐子	4. 巻 展図録
2. 論文標題 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都国立近代美術館所蔵 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて	6. 最初と最後の頁 10 - 23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 並木誠士	4. 巻 57
2. 論文標題 ミュージアムとまち・地域	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日事連	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 並木誠士	4. 巻 1
2. 論文標題 1900年パリ万国博覧会とHistoire de l'art du Japon	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『明治の万国博覧会 新たな時代へ』	6. 最初と最後の頁 100-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田温司	4. 巻 5
2. 論文標題 モダニズムとその脱構築 映画のなかのポロック、ウォーホル、パスキア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ディアファネース』	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金井直	4. 巻 4
2. 論文標題 第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ディアファネース』	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部葉子	4. 巻 9
2. 論文標題 アーカイブと展覧会/出来事から出来事へ;何が行われたのか、そしてそれをどう見るのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『情報科学芸術大学院大学紀要』	6. 最初と最後の頁 67-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原資明	4. 巻 9
2. 論文標題 メディア・アートの交通論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『情報科学芸術大学院大学紀要』	6. 最初と最後の頁 170-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口かおり	4. 巻 5
2. 論文標題 近現代美術の「臭気」をめぐる一考察 展示、収蔵、保存、修復のケーススタディ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ディアファネース』	6. 最初と最後の頁 18-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上村博	4. 巻 21
2. 論文標題 異国趣味と真正さ;第二帝政期フランスのオリエンタリズム絵画 における「場所」の意味	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『京都造形芸術大学紀要』	6. 最初と最後の頁 24-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 UEMURA Hiroshi	4. 巻 15-1
2. 論文標題 From Romantic localism to a new aesthetics of place: Rethinking locality via the example of the Neo Mingei movement	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Art & Media	6. 最初と最後の頁 11-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石谷治寛	4. 巻 9
2. 論文標題 歴史と踊る 再演の想像力をめぐる三つのケース	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 情報科学芸術大学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川修	4. 巻 14
2. 論文標題 『明るい部屋』における遊行と転回	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美学芸術学論集	6. 最初と最後の頁 5-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 並木誠士	4. 巻 33
2. 論文標題 《巖島・和歌浦図》(個人蔵)について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 美術フォーラム	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 並木誠士	4. 巻 130
2. 論文標題 初期韃靼人図について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大和文華	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田温司	4. 巻 3
2. 論文標題 天使とキリスト	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ディアファネース	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口かおり	4. 巻 11
2. 論文標題 保存修復とX線の「暴力性」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 表象	6. 最初と最後の頁 234-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TAGUCHI KAORI	4. 巻 1
2. 論文標題 Symbol and Satire in the History of Restoration	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Bali: International Forum on Arts	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧口千夏	4. 巻 8
2. 論文標題 写真の 原点 最高	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 京都国立近代美術館研究論集	6. 最初と最後の頁 62-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加治屋健司	4. 巻 45
2. 論文標題 フラットヘッド画面としての単彩画 中原佑介の韓国現代美術論	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 西洋美術史学会論文集	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16901/jawah.2016.08.45.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 OKADA ATSUSHI	4. 巻 1
2. 論文標題 Ut pictura kinesis	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Occhi e sguardi nella filosofia e nelle arti/ Eyes and gazes in Philosophy and arts	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川修	4. 巻 12
2. 論文標題 デジタル写真の現在	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 美学芸術学論集	6. 最初と最後の頁 6-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川修	4. 巻 27-(4)
2. 論文標題 写真イメージの人類学	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 並木誠士	4. 巻 1
2. 論文標題 油彩からの撤退ー浅井忠の場合	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 油彩への衝動	6. 最初と最後の頁 273-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kajiya Kenji	4. 巻 1
2. 論文標題 Posthistorical Traditions in Art, Design, and Architecture in 1950s Japan	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 World Art	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taguchi Kaori	4. 巻 1
2. 論文標題 Using the Existing to Create the Yet-to-be	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Monumental Treasures	6. 最初と最後の頁 270-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口かおり	4. 巻 5
2. 論文標題 椿貞雄の《自画像》の制作技法について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東北芸術工科大学文化財保存研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上村博	4. 巻 19
2. 論文標題 場所の病、または作品の外について	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 京都造形大学紀要	6. 最初と最後の頁 70-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田祐子	4. 巻 1
2. 論文標題 グロピウス：芸術と産業をめぐる華麗なる一族	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 ベルリン 砂上のメトロポール	6. 最初と最後の頁 187-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳幸浩	4. 巻 180
2. 論文標題 東野芳明のデュシャン / 中原佑介のデュシャン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 美術史	6. 最初と最後の頁 270-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 IKENO AYAKO	4. 巻 1
2. 論文標題 Volo e caduta: l'immaginazione cartografica nell'arte contemporanea	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Occhi e sguardi nella filosofia e nelle arti/ Eyes and gazes in Philosophy and arts	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 池野絢子
2. 発表標題 事物の諸価値と「脱物質化」以後の芸術 ;リーグルとブランディから
3. 学会等名 美術評論家連盟2018年度シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池野絢子
2. 発表標題 カルロ・カッラにおける「秩序回帰」と「純粹絵画; イタリア美術におけるモダニズムの再考へ向けて
3. 学会等名 イタリア言語・文化研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加治屋健司
2. 発表標題 ナバホ/ノーランド・プロジェクト カラーフィールド絵画とアメリカ先住民文化
3. 学会等名 同研究「覇権主義と美学 インディアン同化政策とアメリカ現代美術」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田口かおり
2. 発表標題 勅使河原蒼風《樹獸》調査と保存修復
3. 学会等名 国際シンポジウム:勅使河原蒼風の時代 近現代美術の保存・修復・再制作をめぐって
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田口かおり
2. 発表標題 美術作品の保存修復における光学調査の射程
3. 学会等名 第9回光完成専門委員会講演会 同志社大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡部葉子
2. 発表標題 モノの記述を通じたコミュニケーション 美術と言語の接点」
3. 学会等名 オックスフォード・ユニバーシティ・プレス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 OKADA Atsushi
2. 発表標題 Reception of the “Renaissance” in modern Japan;1890-1960
3. 学会等名 Paradigms of Change in Modernising Asia and America Ghent University
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ayako IKENO
2. 発表標題 Carlo Carr: Between Primitivism and Classicism
3. 学会等名 Avant-garde Art and Classicism from 1880 to 1945, Nagoya University
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 UEMURA Hiroshi
2. 発表標題 The art in situ or the site as the art: a mode of Japanese reception of contemporary art
3. 学会等名 6th French Network for Asian Studies International Conference (FNASIC)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 TAGUCHI Kaori
2. 発表標題 Il restauro e la conservazione durante e dopo 1966 in Il restauro e l'alluvione: dopo 50 anni
3. 学会等名 Studio restauro Lisa Venerosi
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 IKEDA Yuko
2. 発表標題 Jugendstil and the Japanese in Camera Work; Their Aesthetic Exchanges
3. 学会等名 International Conference: Camera Work University of Zurich
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 OKADA ATSUSHI
2. 発表標題 Angel as Intercultural Medium
3. 学会等名 Mediation and Immediacy (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岡田温司
2. 発表標題 ピランデッロと初期映画
3. 学会等名 美学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 UEMURA HIROSHI
2. 発表標題 Exotisme et Nostalgie
3. 学会等名 IAA
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YAMASHITA SHUNSUKE
2. 発表標題 Real Faces of Japanese Researchers Seen in Academic Films in 1930s
3. 学会等名 National Taiwan Museums Symposium (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 KAJIYA KEMJI
2. 発表標題 MOdern and Contemporary Artworks at the Komaba Campus of the University of Tokyo
3. 学会等名 U.S.-Japan Curatorial Exchange Workshop
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KAJIYA KENJI
2. 発表標題 The Archive as Prosthetic Supplement
3. 学会等名 Archive Fever in Contemporary Art Institutions and Creative Practices
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 IKEDA YUKO
2. 発表標題 Katagami Collections in Germany
3. 学会等名 International Symposium: KATAGAMI in the West
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YAMASHITA SHUNSUKE
2. 発表標題 Applications of Video in Museum
3. 学会等名 University Museums Symposium (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 TAGUCHI KAORI
2. 発表標題 Using the Existing to Create the Yet-to-be
3. 学会等名 Nordic Association of Conservators Congress for Preservation and Conservation
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 篠原資明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 166頁
3. 書名 『あいだ哲学者は語る どんない問にも交通論』	

1. 著者名 平芳幸浩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 304頁
3. 書名 『マルセル・デュシャンとは何か』	

1. 著者名 岡田温司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 296頁
3. 書名 映画と芸術と生と	

1. 著者名 並木誠士（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 608頁
3. 書名 『近代京都の美術工芸 - 制作・流通・鑑賞 - 』	

1. 著者名 岡田温司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 346
3. 書名 映画とキリスト	

1. 著者名 岡田温司	4. 発行年 2016年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 211
3. 書名 天使とは何か	

1. 著者名 平芳幸浩	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 311
3. 書名 マルセル・デュシャンとアメリカ	

1. 著者名 加治屋健司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 竹林社	5. 総ページ数 502 (152 - 171)
3. 書名 ニューヨーク 錯乱する都市の夢と現実	

1. 著者名 岡田温司	4. 発行年 2015年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 297
3. 書名 映画は絵画のように	

1. 著者名 池野絢子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 アルテ・ポーヴェラ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡部 葉子 (WATBA YOKO) (00439225)	慶應義塾大学・アート・センター(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	青山 勝 (AOYAMA MASARU) (10319832)	大阪芸術大学・芸術学部・教授 (34405)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金井 直 (KANAI TADASHI) (10456494)	信州大学・学術研究院人文科学系・教授 (13601)	
研究分担者	上村 博 (UEMURA HROSHI) (20232796)	京都造形芸術大学・芸術学部・教授 (34319)	
研究分担者	前川 修 (MAEKAWA OSAMU) (20300254)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	並木 誠士 (NAMIKI SEISHI) (50211446)	京都工芸繊維大学・デザイン・建築学系・教授 (14303)	
研究分担者	池田 祐子 (IKEDA YUKO) (50270492)	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・学芸課・主任研究員 (82622)	
研究分担者	平芳 幸浩 (HIRAYOSI YUKIHIRO) (50332193)	京都工芸繊維大学・デザイン・建築学系・准教授 (14303)	
研究分担者	山下 俊介 (YAMASHITA SHUNSUKE) (50444451)	北海道大学・総合博物館・助教 (10101)	
研究分担者	篠原 資明 (SHINOHARA MOTOAKI) (60135499)	京都大学・人間・環境学研究科・名誉教授 (14301)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	塚田 全彦 (TSUKADA MASAHIKO) (60265204)	東京藝術大学・大学院美術研究科・准教授 (12606)	
研究分担者	藤本 かおり(田口かおり) (FUJIMOTO KAORI) (60739986)	東海大学・創造科学技術研究機構・特任講師 (32644)	
研究分担者	石谷 治寛 (ISHITANI HARUHIRO) (70411311)	京都市立芸術大学・芸術資源研究センター・非常勤講師 (24301)	
研究分担者	加治屋 健司 (KAJIYA KENJI) (70453214)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	橋本 梓 (HASHIMOTO AZUSA) (70524073)	独立行政法人国立美術館国立国際美術館・その他部局等・研究員(移行) (84411)	
研究分担者	榊田 倫広 (MASUDA NORIHIRO) (70600881)	独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・企画課・研究員 (82621)	
研究分担者	秋庭 史典 (AKIBA FUMINORI) (80252401)	名古屋大学・情報学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	池野 絢子 (IKENO AYAKO) (80748393)	京都造形芸術大学・芸術学部・准教授 (34319)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	牧口 千夏 (MAKIGUTHI THINATSU) (90443465)	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・主任 研究員 (84302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 国際シンポジウム「現代美術の再制作 / 再構築 保存修復の観点から」(京都大学大学院 人間・環境学研究所)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 特別講演会「実現された天国 システィーナ礼拝堂1481-1541」(同上)	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 国際シンポジウム「現代美術における保存と修復」(同上)	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 特別セミナー「イタリア美学の最前線」(同上)	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 ワークショップ「アントニオ・ラーヴァによる助言」(京都国立近代美術館、東京都現代 美術館)	開催年 2015年～2015年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関